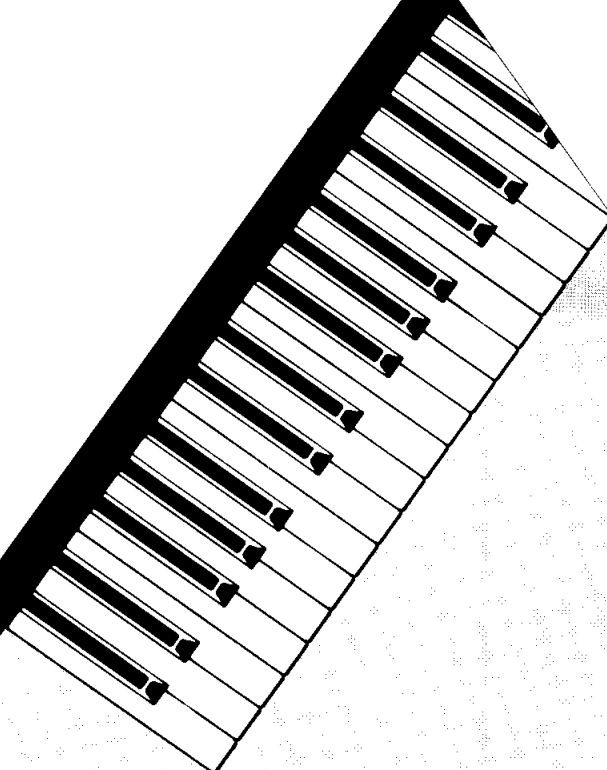


PORTATONE

PSR-48

取扱説明書



YAMAHA

このたびは、
 ヤマハ・ポータートーンPSR-48を
 お買い求めいただきまして、
 誠にありがとうございます。

この取扱説明書の見方

本書は、PSR-48の豊富な機能、操作方法を理解しやすいように、
 少しずつステップを踏んで読んでいただけるような構成になってい
 ます。従って、基本的には前の方から順にご覧ください。
 また、次のような見方をされるのもアイデアです。

●全てをご理解いただいた後は……

“もくじ”のページを開き、目的に合った所をさがす。

●ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

“各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを
 見る。

おことわり

本書では付属の和文シートを使用されることを前提とし、各部の名
 称や機能等をなるべく日本語で明記するようにしました。(和文シ
 ートについては、2ページを参照)

音楽を楽しむエチケット



これは電子機械工業会
 「音のエチケット」キャンペーン
 のシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。
 特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑
 をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、
 窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快
 適な生活環境を守りましょう。

もくじ

1. ご使用の前に	ページ	4. ステップ2(活用編 I)	ページ
1. ご注意.....	2	1. フィンガードコードで演奏.....	17
2. 譜面立ての立て方.....	2	・練習曲(ラブ・ミー・テンダー).....	18
3. 和文シートの使い方.....	2	・フィンガードコード一覧表.....	19
4. 電源のしたく.....	2	2. ソロスタイルでパフォーマンス(ソロスタイルプレイ).....	21
2. 各部の名称とはたらき	3	3. 打楽器を担当してしまおう(打楽器ボタン).....	21
3. ステップ1(基本編)		4. 自分の演奏を録音(ミュージックプログラマー).....	23
1. デモンストレーション曲を聴いてみよう.....	7	・練習曲(とんぼ).....	25
2. 好きな音色で弾こう.....	8	5. ステップ3(活用編 II)	
3. 音に効果を!(サスティン、ピッチベンド、 アンサンブル、デュアルボイス).....	9	1. リズムパターンを作ろう(カスタムドラマー).....	27
4. 音程を変えるには?(トランスポーズ).....	10	2. 他の機器と接続するには?.....	29
5. 他の楽器と音程を合わせるには?(ピッチ).....	10	3. MIDI機能でステップアップ.....	29
6. リズムに合わせて弾こう.....	11	6. 資料	
7. スプリット演奏をしよう.....	13	1. オプション(別売品)のご紹介.....	33
・練習曲(青い影).....	13	2. 仕様.....	33
8. シングルフィンガーコードで楽々演奏.....	14	3. おかしいな?と思ったら.....	34
・シングルフィンガーコード一覧表.....	15	4. 発音数一覧表.....	34
		5. アフターサービスと保証.....	裏表紙

1. ご使用の前に

1. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください。



- ・落としたり、物をぶついたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

使わない時は…



- ・必ず電源スイッチを切ってください。
- ・電源アダプターを使用した場合は、家庭用コンセントから抜いてください。
- ・長い間使わない時は、乾電池を取り出してください。

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布でカラ拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上には置かないでください。貼り付いてしまうことがあります。

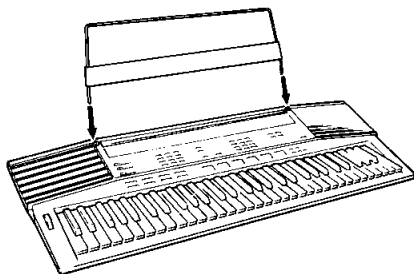
保管してください。



- ・この取扱説明書をお読みにになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

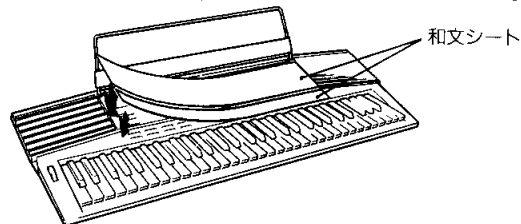
2. 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、コントロールパネル面上方にある2つの穴に足を差し込んでお使いください。



3. 和文シートの使い方

付属の和文シートは粘着テープ式になっています。PSR-48のパネル面に貼り付けてお使いください。和文シートを使用すれば、各部の名称を日本語で読みとることができます。



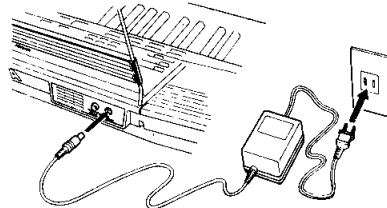
4. 電源のしたく

PSR-48は、家庭用コンセントでも乾電池でも使えます。お使いになる前に、どちらかを選んで準備してください。

家庭用コンセントから電源をとる場合

付属の電源アダプター・PA-4を使用します。図のように接続してください。

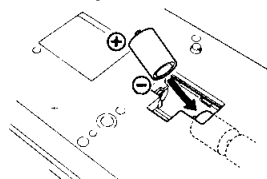
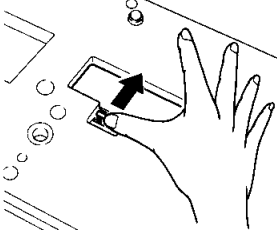
- ①リアパネルにある電源アダプター接続用端子(DC (9-12V) IN)へ差し込む。



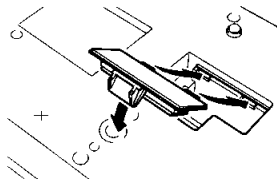
- ②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。
*他の電源アダプターは使わないでください。

乾電池を使う場合

- ①PSR-48を裏返し、電池ボックスを外します。 ②市販の乾電池(単1乾電池)を6本入れます。向きを間違えないように入れてください。

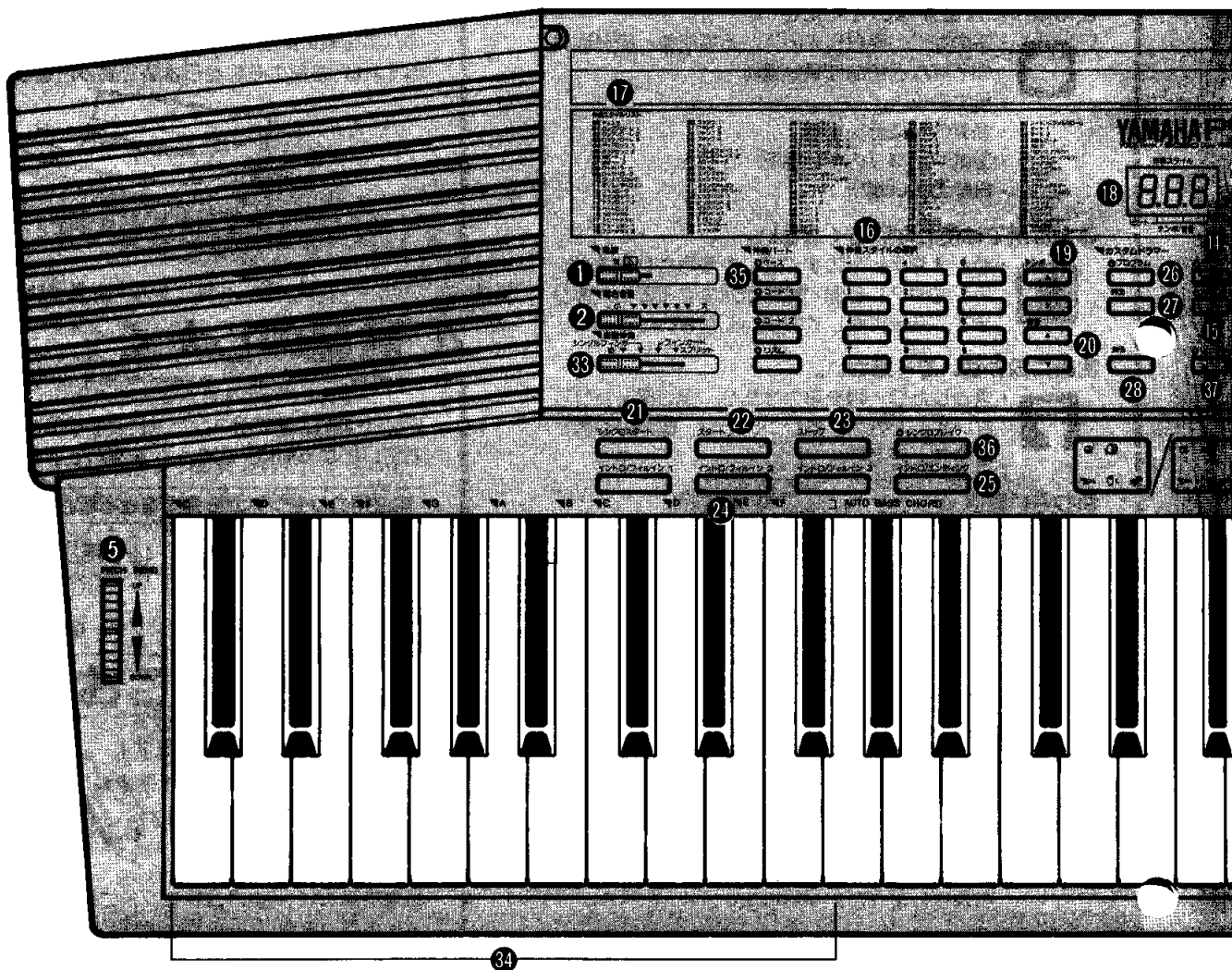


- ③乾電池を入れたら電池ボックスを閉めます。



*電池が少なくなると、音が歪んだり、誤動作するようになります。このような時は、6本共新しいものと交換してください。お買い求めの際、乾電池は単1乾電池6本とご指定ください。

2. 各部の名称とはたらき



全体のコントロール

- ①電源スイッチ(⇒7ページ)
電源を入れたり、切ったりするスイッチです。
電源を入れると、②の[3桁LEDディスプレイ]に伴奏スタイル番号の00が、③の[2桁LEDディスプレイ]に音色番号の00が表示されます。
- ②総合音量レバー(⇒7ページ)
全体の音量を調節するためのレバーで、右の方にすらすらほど音が大きくなります。
- ③トランスポーズコントロールボタン(⇒10ページ)
トランスポーズ(移調)の量を設定するためのボタンです。
- ④ピッチコントロールボタン(⇒10ページ)
発音のピッチ(音程)を微調整するためのボタンです。他の楽器や録音された音楽に音程を合わせることができます。
- ⑤ピッチベンドホイール(⇒9ページ)
このホイールを回すことにより、発音のピッチ(音程)を一時的に変化させることができます。タイミングよく回して、演奏に変化をつけましょう。
※ギター演奏で耳にするチョーキングと同じような効果が得られます。

⑥MIDIボタン(⇒29ページ)

MIDI(ミディ)に関する設定は、このボタンを押しながらいります。

⑦デモンストレーションボタン(⇒7ページ)

デモンストレーション曲を聴きたい時は、このボタンを押すことによりスタートさせることができます。もう一度押すと止まります。

音色

⑧音色の選択ボタン(⇒8ページ)

100種類の中から音色を選ぶためのボタンです。-(マイナス)ボタンは、現在の音色よりも1つ小さい番号の音色にするためのボタンで、+(プラス)ボタンは、現在の音色よりも1つ大きい番号の音色にするためのボタンです。0~9のボタンは、音色を番号で指定する時に使用します。

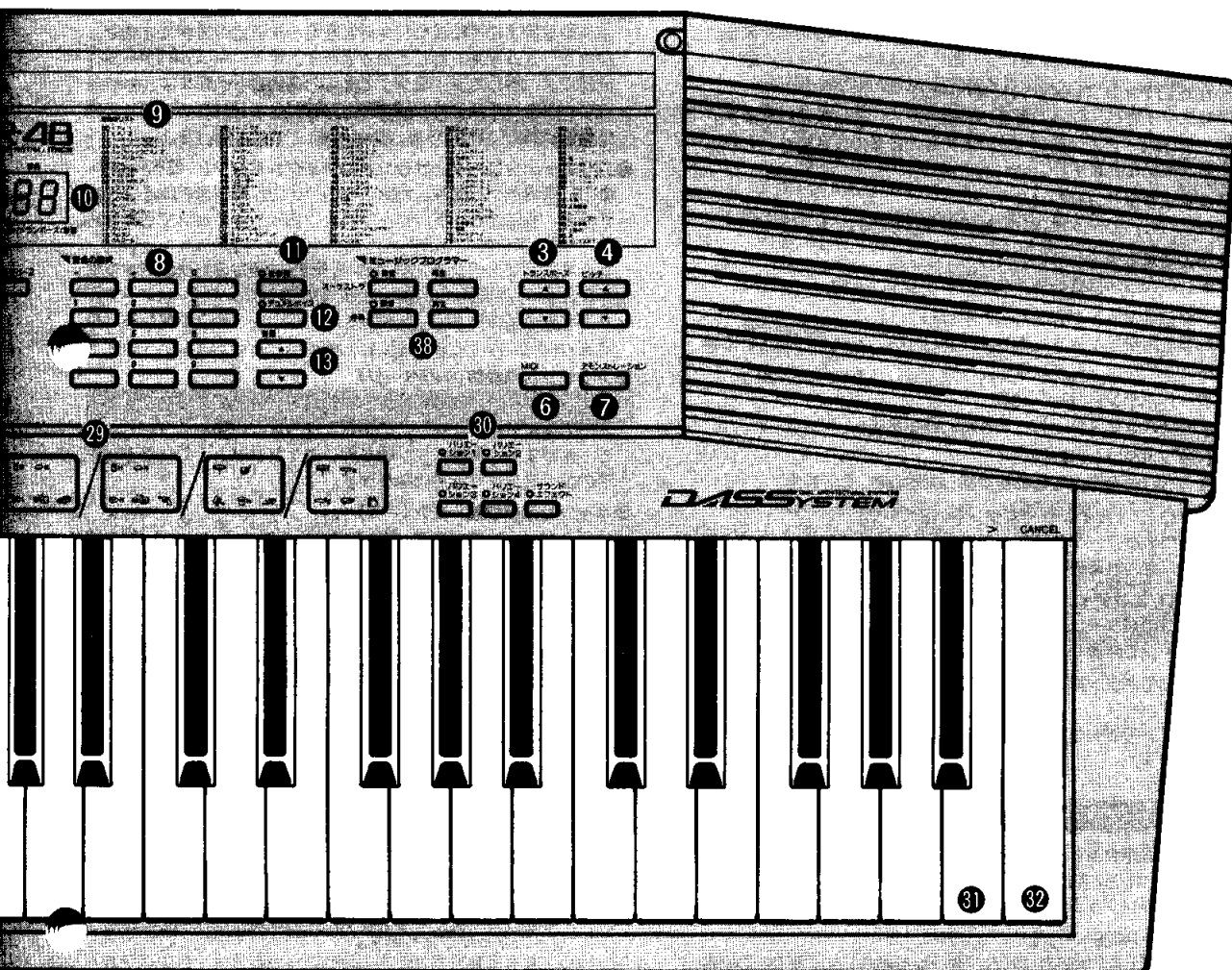
⑨音色のリスト(⇒33ページ)

100種類の“音色の番号と名称”の対応が表記されています。

⑩2桁LEDディスプレイ(⇒8,10ページ)

音色の番号(00~99)が、ここに表示されます。ピッチ(音程)やトランスポーズ(移調)、演奏音の音量の設定時は、それらの値が表示されます。

⇒マークのところにくわしく説明してあります。



① 低音側ボタン(⇒13ページ)

スプリット演奏時に使用します。スプリット演奏時には、このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させてください。低音側の音色を指定できる状態になります。操作後、5秒経過すると高音側の音色を指定できる状態に戻ります。

※スプリット演奏とは?

①の[自動伴奏スイッチ]をスプリットの位置にすることにより、スプリット演奏が可能になります。

スプリット演奏は、自動伴奏用鍵盤を弾いた時と、それ以外(高音側の鍵盤)を弾いた時の音色を異なったものにできる機能です。音色の組み合わせは、自分で自由に指定できます。

② デュアルボイスボタン(⇒9ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、デュアルボイス演奏が可能になります。さらに、この状態ではデュアルボイスの音色を順に指定することができます。また、もう一度このボタンを押してランプを消灯させると、デュアルボイスの状態が解除されます。

※デュアルボイス演奏とは?

デュアルボイス演奏は、演奏に対して2つの音色が同時に(重なって)鳴る機能です。音色の組み合わせは、自分で自由に指定できます。

③ 演奏音の音量ボタン(⇒8ページ)

演奏音*1の音量を調節するためのボタンです。

④ サスティン1/サスティン2ボタン(⇒9ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、演奏音に自然な余韻がつくようになります。なお、サスティン1よりもサスティン2の方が、余韻の長い効果が得られます。もう一度押してランプを消灯させると、効果が解除されて元の状態に戻ります。

⑤ アンサンブルボタン(⇒9ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、演奏音が厚みのある音になります。もう一度押してランプを消灯させると、効果が解除されて元の状態に戻ります。

自動伴奏

⑥ 伴奏スタイルの選択ボタン(⇒11ページ)

100種類の中から伴奏スタイル(リズムの種類)*2を選ぶためのボタンです。-(マイナス)ボタンは、現在のスタイルよりも1つ小さい番号のスタイルにするためのボタンで、+(プラス)ボタンは、現在のスタイルよりも1つ大きい番号のスタイルにするためのボタンです。①~⑨のボタンは、スタイルを番号で指定する時に使用します。

⑩ 伴奏スタイルリスト (⇒33ページ)

100種類の“伴奏スタイル(リズム)の番号と名称”の対応が表記されています。

⑪ 3桁LEDディスプレイ (⇒11、12ページ)

伴奏スタイル(リズム)の番号(00~99)が、ここに表示されます。ビート(拍子)やテンポ(速さ)、伴奏音の音量の設定時は、それらの値が表示されます。

⑫ テンポボタン (⇒11ページ)

伴奏(リズム)のテンポ(速さ)を調節するためのボタンです。

⑬ 伴奏の音量ボタン (⇒11ページ)

伴奏(リズム)の音量を調節するためのボタンです。

⑭ シンクロスタートボタン (⇒11ページ)

自動伴奏用鍵盤を押すと同時に伴奏(リズム)をスタートさせる場合は、このボタンを押します。

⑮ スタートボタン (⇒11ページ)

すぐにリズムをスタートさせる時に押します。

⑯ ストップボタン (⇒12ページ)

伴奏(リズム)を停止させる時に押します。

⑰ イントロ/フィルイン1~3ボタン (⇒12ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、フィルインのパターンを入れる時に押します。

⑱ イントロ/エンディングボタン (⇒12ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンで伴奏(リズム)を停止させる時に押します。

※イントロのボタンは4つあります。ボタンによってパターンが異なります。

※フィルインのボタンは3つあります。ボタンによってパターンが異なります。

カスタムドラマー

① プログラムボタン (⇒27ページ)

自分で2小節のリズムパターンを作る時に押します。ボタンを押して左上のランプを点灯させると、リズム作成が可能になります。

② 再生ボタン (⇒28ページ)

自分で作成した2小節のリズムパターンを鳴らしたい時は、このボタンを押すことによりスタートさせることができます。もう一度押すと止まります。

③ 消去ボタン (⇒27ページ)

リズムパターン作成の際、最初からリズムを作りたい場合はこのボタンを押します。これにより、それまで鳴らしていたリズムパターンを消してしまうことができます。

④ 打楽器ボタン (⇒21ページ)

ボタンを押すことにより打楽器音を鳴らすことができますので、自分でリズムを奏することができます。また、リズムパターン作成時には、押したタイミングでその打楽器音が入ります。6つのボタンそれぞれに5種類の打楽器(うち1種類は効果音)が割り当てられています。

⑤ バリエーション1~4、サウンドエフェクトボタン (⇒22ページ)

④の打楽器ボタンを押した時にどの系列の打楽器音を鳴らすようにするか、指定できます。(ボタンごとに指定することはできません。6つ一度に切り替わります。)

たとえばバリエーション2ボタンを押すと、6つの打楽器ボタンは左から順に、バスドラム、ロータム(シンセ)、ミッドタム(シンセ)、ハイタム(シンセ)、スネアドラム、ライドシンバルのボタンになります。

⑥ アクセント用鍵盤 (⇒27ページ)

リズムパターン作成時には、アクセント(強拍)の位置を指定するための鍵盤になります。この鍵盤を押しながら強拍のタイミングで、希望する打楽器ボタン④を押してください。その打楽器音が、そのタイミングで強拍になります。

⑦ キャンセル用鍵盤 (⇒27ページ)

リズムパターン作成の際、余分な打楽器の音をキャンセル(取り除く)したい場合は、この鍵盤を押しながら、その打楽器のボタンを押します。すると、その楽器の音を2小節間にわたり消すことができます。

自動伴奏

⑧ 自動伴奏スイッチ (⇒13、14、17ページ)

演奏モードを指定するためのスイッチです。

シングルフィンガー

⑧の[自動伴奏用鍵盤]を指1本で押さえて、伴奏させることができます。伴奏は、ベース、コード1、コード2、リズムから成り立ちます。

フィンガード

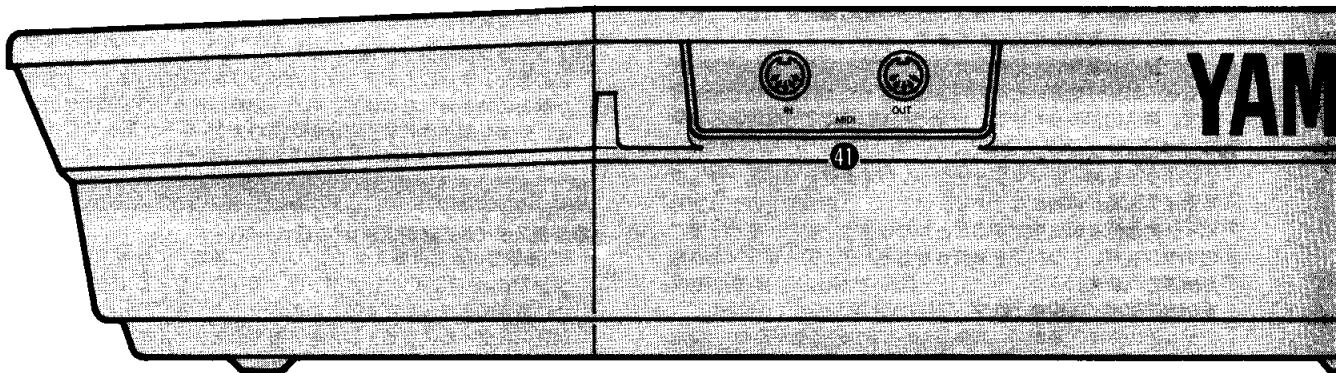
⑧の[自動伴奏用鍵盤]を普通のコードの押さえ方で押さえて、伴奏させることができます。伴奏は、ベース、コード1、コード2、リズムから成り立ちます。

スプリット

⑧の[自動伴奏用鍵盤]を弾いた時に鳴る音と、それ以外の鍵盤を弾いた時に鳴る音の音色を異なったものにできます。

切

3種類のどの機能も使わない時は、この位置にします。



④ 自動伴奏用鍵盤 (⇒13、14、17ページ)

これらの鍵盤の役割は、演奏モードの指定(④の[自動伴奏スイッチ]の位置)によって決まります。

⑤ 伴奏パートボタン (⇒14ページ)

各パートを鳴らすか鳴らさないか指定できます。ボタン左上のランプを点灯させるとオン(鳴る状態)、消灯させるとオフ(鳴らない状態)です。

⑥ シンクロブレイクボタン (⇒21ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、シンクロブレイクが可能になります。

※シンクロブレイクとは?

シンクロブレイクは、曲の途中で⑦の打楽器ボタンを使って自分でフィルインすることができる機能です。打楽器ボタンを使ってフィルインしている間、リズムは休止(ブレイク)します。

ソロスタイルプレイ

⑦ ソロスタイルプレイボタン (⇒21ページ)

このボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、ソロスタイルプレイが可能になります。

※ソロスタイルプレイとは?

ソロスタイルプレイは、演奏音に対して効果的な音が自動的に加わる機能です。付加される音は、伴奏スタイル(リズム)や演奏内容によって異なります。

ミュージックプログラマー

⑧ ミュージックプログラマーボタン (⇒23ページ)

自分の演奏を録音(記録)しそれを後で自由に聴いたり、それに合わせて演奏することができます。伴奏(つまり低音側)に対応するトラックと、オーケストラ(つまり高音側の演奏)に対応するトラックの2つがありますので、低音側と高音側を2回に分けて録音することができます。

オーケストラ録音ボタン：高音側の演奏を録音する時に押します。

オーケストラ再生ボタン：高音側の演奏を再生する時に押します。

伴奏録音ボタン：低音側の演奏を録音する時に押します。

伴奏再生ボタン：低音側の演奏を再生する時に押します。

※片方のパートを再生しながら、もう片方を録音することができます。その場合、もちろん2つのトラックは同時にスタート/停止できます。

リアパネル

⑨ ヘッドホン/AUX出力端子 (⇒29ページ)

PSR-48の音を出力する端子です。ヘッドホンを接続して夜間練習したり、キーボードアンプやステレオと接続して、より大きな音で鳴らすことができます。

この端子にプラグを差し込むと、PSR-48のスピーカーからは音が出なくなります。

⑩ 電源アダプター接続用端子 (⇒2ページ)

付属の電源アダプター・PA-4を接続するための端子です。PA-4を接続すると、家庭用の電源コンセントから電源をとって使用できるようになります。

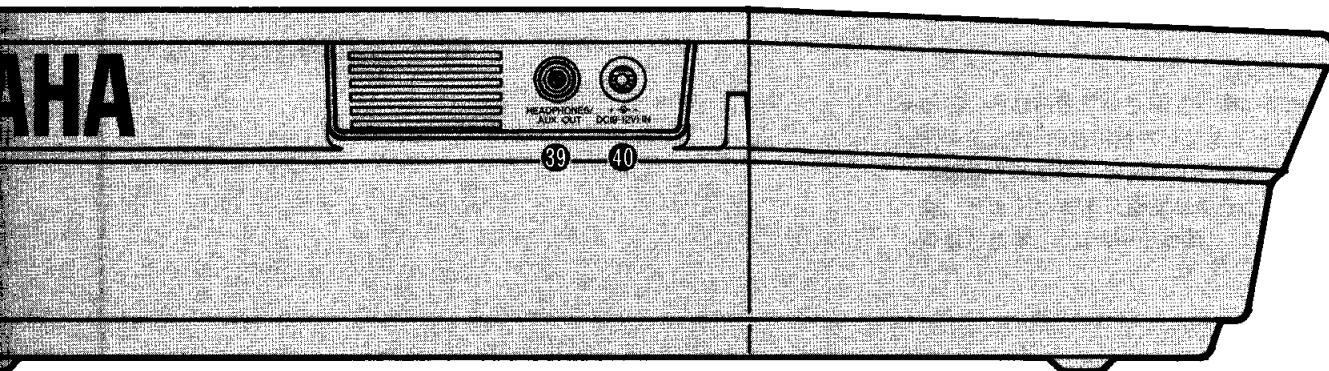
⑪ MIDI端子 (⇒29ページ)

他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDIコントロールを行えるようになります。

・シンクロ：同期を意味します。

*1：本書で言う演奏音は、伴奏音およびリズム音以外の音、つまり④の[自動伴奏スイッチ]が切の位置にある場合は全ての鍵盤に対する演奏音を指し、切以外の位置にある場合は高音側の鍵盤での演奏音を指します。

*2：[自動伴奏スイッチ]がシングルフィンガーまたはフィンガーの位置になっていると、ベース、コード、リズムからなる伴奏を鳴らすことが可能。ただしリズムは、切またはスプリットの位置でも鳴らすことが可能です。



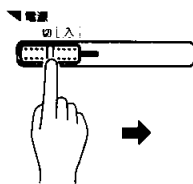
3. ステップ1 (基本編)

1. デモンストレーション曲を聴いてみよう

PSR-48にはお手本としてデモンストレーション曲が入っており、いつでも自由に聴くことができます。

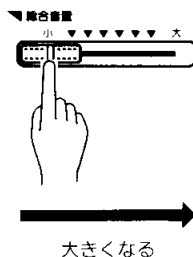
①電源スイッチをオン

電源スイッチをオンにして電源を入れます。電源を入れると3桁LEDディスプレイと2桁LEDディスプレイの両方に00が表示されます。



②音量の調節

あらかじめ総合音量レバーを右方向にスライドさせて、適当な音量になるようにセットしておきます。



鍵盤を押して、音を出しながら調節してください。

③スタート

デモンストレーションボタンを押して、曲をスタートさせます。



④停止

デモンストレーション曲は、繰り返し再生されます。停止させる時は、ストップボタンまたはデモンストレーションボタンを押してください。



★デモンストレーション曲は、止めるまで何回でも繰り返し自動再生されます。

★音色は、曲の進行に合わせて次々と切り替わります。

★音色の切り替えやテンポ変更、音程変更など、様々な設定変更が可能です。ただし、曲中の自動切り替えのところにいくと、本来の設定に戻ります。

2.好きな音色で弾こう

PSR-48には100種類の音色があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

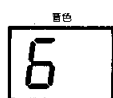
①音色の選択

00～99の100種類の中から、音色を選んでください。

0～9ボタンで指定する場合

例)音色番号62の琴を選ぶ時は、

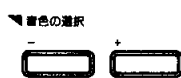
6を押して、



2を押します。



+/-ボタンで指定する場合



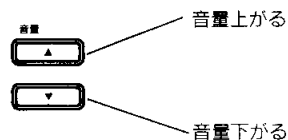
小さい番号の音色になる。 大きい番号の音色になる。
(+/-ボタンは、押し続けると連続的に変化します。)

★電源スイッチを入にすると、音色は音色番号00のピアノ1になります。

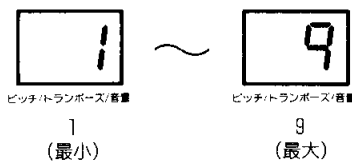
★99の状態で+ボタンを押すと00になり、00の状態で-ボタンを押すと99になります。

②演奏音の音量調節

演奏音の音量は総合音量レバーの設定によっても変化しますが、演奏音の音量ボタンによる設定によっても変化します。必要であれば、演奏音の音量ボタンで音量調節してください。2桁LEDディスプレイを見ながら1～9の範囲で調節できます。



真ん中よりも少し右寄りにある方の音量ボタンです。

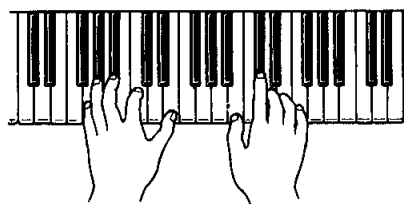


★操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号表示に戻ります。

★電源スイッチを入にした時は、いつも最大の9に戻っています。また、▲ボタンと▼ボタンを同時に押して9に戻すこともできます。

③演奏

好きな曲を弾いてみましょう。



★いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

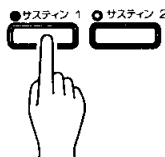
★同時発音数は8音(8音ポリフォニック)ですが、自動伴奏機能をはじめ、リズムを使ったり、アンサンブル機能、デュアルボイス機能を使うと、同時発音数は少なくなります。(34ページ参照)

3. 音に効果を! (サスティン、ピッチベンド、アンサンブル、デュアルボイス)

PSR-48には、様々な効果があります。実際にオンにして確かめてみましょう。

●サスティン

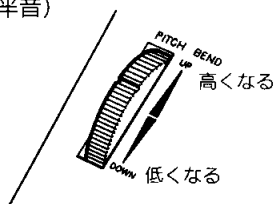
サスティンは、演奏音の余韻を与える効果です。サスティン1またはサスティン2ボタンを押して、ボタン左上のランプを点灯させてください。効果がオンとなります(サスティン2の方が余韻の長い効果です)。



- ★サスティン1と2の両方を同時にかけることはできません。
- ★伴奏音およびリズム音には、サスティン効果はかかりません。
- ★余韻の長さは音色ごとに異なります。

●ピッチベンド

ピッチベンドホイールを回すことにより、演奏中の音の高さ(ピッチ)を上下させることができます。手を離すと中央(元の音程)に戻るしくみになっています。奥へ回すと音程が高くなり、手前に回すと音程が低くなります。約±200セントの範囲で上下させることができます。(参考: 100セント=半音)



- ★伴奏音およびリズム音、低音側の音には、ピッチベンド効果はかかりません。

●アンサンブル

音程が微妙に異なる2つの音が同時に鳴り、厚みのある音になる効果です。アンサンブルボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、効果がオンとなります。



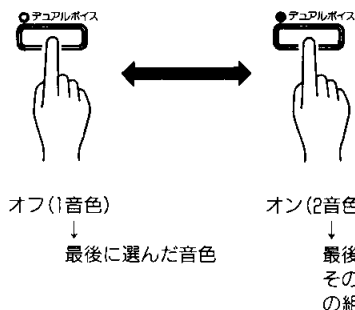
- ★伴奏音およびリズム音には、アンサンブル効果はかかりません。
- ★アンサンブル効果をオンにすると、演奏音の同時発音数はそれまでの半分になります。

●デュアルボイス

2つの音色を選んで同時に鳴らすことができる効果です。デュアルボイスボタンを押してボタン左上のランプを点灯させると、効果がオンとなります。組み合わせたい音色を順に指定してください。最後に指定した音色と、1回前に指定した音色の組み合わせになります。



- ★1曲の中で、デュアルボイスボタンを押してオンの状態を使い分けると効果的です。

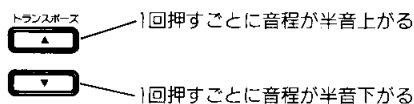


- ★伴奏音およびリズム音には、デュアルボイス効果はかかりません。
- ★デュアルボイス効果をオンにすると、演奏音の同時発音数はそれまでの半分になります。
- ★電源スイッチを入いしてから一度も音色を切り替えていなければ、デュアルボイスの状態にした時、音色番号00 ピアノ1と99 オーケストラヒットの組み合わせになります。
- ★スプリット機能を併用した場合は、高音側と低音側それぞれに2音色ずつ音色指定できます。(13ページ参照)

4. 音程を変えるには？ (トランスポーズ)

トランスポーズコントロールボタンで音程を変えることにより、押さえる鍵盤(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。(つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。)

2桁LEDディスプレイを見ながら、±6半音の範囲で設定できます。



★操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号表示に切り替わります。

★つまり±6半音の範囲ですから、“ド”の音なら高い方に最大で“ファの#”(半オクターブ)まで、低い方も最大で“ファの#”(半オクターブ)までずらすことができます。

たとえば値を5、つまり+5半音高くした場合は、



★電源スイッチを入にした時は、いつも元の高さの0に戻っています。また、▲ボタンと▼ボタンを押して0に戻すこともできます。

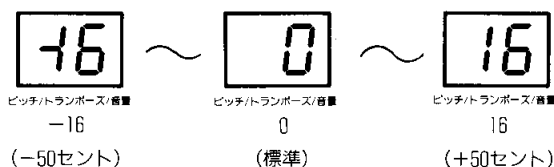
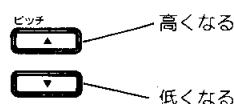
★この機能は、合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキー(調)を合わせる時にも便利です。

5. 他の楽器と音程を 合わせるには？ (ピッチ)

ピッチコントロールボタンにより、発音の高さ(ピッチ)を微調整することができます。つまり、合奏をする場合など、この機能により他の楽器と音程を合わせることができます。

±50セントの範囲、約3セントステップで設定できます。
(参考：100セント＝半音)

音を聴きながらこきざみに合わせてください。なお、2桁LEDディスプレイには-16～16で表示されます。



★ボタンを押し続けると、値が連続的に変化します。

★操作後約3秒経過すると、この表示から音色番号表示に切り替わります。

★電源スイッチを入にした時は、いつも標準の0に戻っています。(0の時、A₃=440Hz) また、▲ボタンと▼ボタンを同時に押して0に戻すこともできます。

6. リズムに合わせて弾こう

PSR-48には100種類のリズムがあります。いろいろなリズムに切り替えて、それに合わせて弾いてみましょう。

①リズムの選択

00～99の100種類の中から、リズムを選んでください。

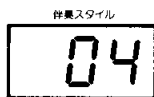
0～9ボタンで指定する場合

例)伴奏スタイル番号04のポップロック1のリズムを選ぶ時は、

0を押して、



4を押します。



+/-ボタンで指定する場合



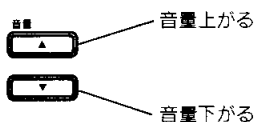
小さい番号のリズムになる。 大きい番号のリズムになる。
(+/-ボタンは、押し続けると連続的に変化します。)

★電源スイッチを入にした時は、リズムは伴奏スタイル番号00のディスクになっています。

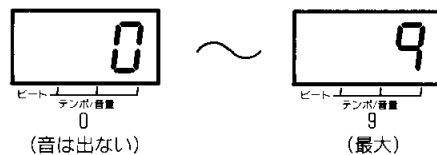
★リズムを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

②リズム音の音量調節

リズム音は総合音量レバーの設定によっても変化しますが、伴奏の音量ボタンによる設定によっても変化します。必要であれば、伴奏の音量ボタンで音量調節してください。2桁LEDディスプレイを見ながら0～9の範囲で調節できます。



真ん中よりも少し左寄りにある方のボリュームボタンです。

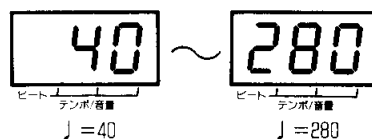
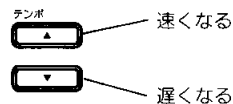


★操作後約3秒経過すると、この表示からリズム番号表示に戻ります。

★電源スイッチを入にした時は、いつも最大の9に戻っています。また、▲ボタンと▼ボタンを同時に押して9に戻すこともできます。

③リズムの速さ指定

3桁LEDディスプレイで1分間の拍数を見ながら設定できますが、曲の速さが楽譜に書かれていない場合など、テンポがあらかじめ判らない時は、④の操作の後、実際に音を聴きながら設定してください。



★リズムごとに標準テンポが異なります。リズム停止状態でリズムを切り替えた場合は、切り替えたリズムの標準テンポになります。また、電源スイッチを入したり、▲ボタンと▼ボタンを同時に押した場合も標準テンポに戻ります。

④リズムのスタート

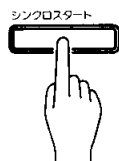
リズムをスタートさせます。スタート方法には大きく分けて3種類ありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

・すぐにスタートさせる場合……スタートボタンを押す。



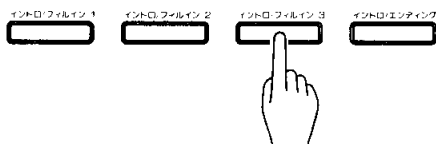
・演奏の開始と共にスタートさせる場合……

シンクロスタート ボタンを押す。



シンクロスタート待ちの時、3桁LEDディスプレイ内の左端の点が4分音符のタイミングで点滅して、リズムの速さを示します。低音側の鍵盤(自動伴奏用鍵盤)を弾くとスタートします。

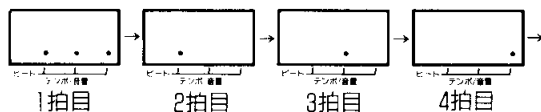
- ・イントロのパターンからスタートさせる場合……
イントロ/フィルイン1~イントロ/フィルイン3、イントロ/エンディングボタンのいずれかを押す。



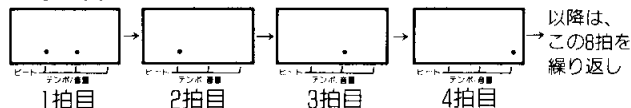
好みのパターンのボタンを押す。なお、イントロ/エンディングボタンを押した場合のイントロパターンは2小節、イントロ/フィルイン1~イントロ/フィルイン3ボタンを押した場合のイントロパターンは1小節です。

- ★リズムをスタートさせた後は、3桁LEDディスプレイ内の点が左から順に、1拍ごとに次のように点灯移動します。

1小節目



2小節目



- ★演奏中にシンクロスタートボタンを押すとリズムが止まります。そして、自動伴奏用鍵盤を弾くと再びリズムが鳴り出します。ブレイクの時に便利です。

⑥フィルイン

イントロ/フィルイン1~イントロ/フィルイン3ボタンを押すことにより、フィルインのパターンを入れることができます。



好みのパターンのボタンを押す。

- ★フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります)。また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。

- ★フィルインパターンが鳴っている最中にもう一度押すと、その時点で普通のパターンに戻ります。

⑥別のリズムへの切り替え

演奏中、別のリズムに切り替えることもできます。

- ★リズムを切り替えても、切り替え前のリズムのテンポが維持されます。

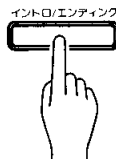
⑦停止

リズムを停止させます。停止方法には2種類ありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

- ・すぐに停止させる場合……ストップボタンを押す。



- ・エンディングのパターンで停止させる場合……
イントロ/エンディングボタンを押す。



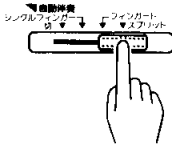
イントロ/エンディングボタンを押した小節から次の小節までエンディングパターンが鳴って停止します。エンディングパターンは2小節の長さです。なお、小節最後の1拍以降にイントロ/エンディングボタンを押した場合は、次の小節から2小節のエンディングパターンが鳴って停止します。

7. スプリット演奏をしよう

低音側の鍵盤(自動伴奏用鍵盤)を弾いた時と高音側の鍵盤を弾いた時に出る音の音色を、異なったものにして演奏できます。音色は自由に指定できます。

① スプリット演奏可能状態に

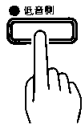
自動伴奏スイッチをスプリットの位置に切り替えます。



★スプリットの状態にすると、高音側の同時発音数が少なくなります。

② 低音側の音色指定/音量調節を可能に

低音側ボタンを押して、



ボタン左上のランプを点灯させ、低音側の音色指定および音量調節をできるようにします。

③ 低音側の音色指定

低音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、音色の選択ボタンで指定します。音色番号は、2桁LEDディスプレイに表示されます。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、低音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★操作後約5秒経過すると、高音側の音色番号表示に切り替わります。

④ 低音側の音量調節

低音側の音量を演奏音の音量ボタンで調節します(低音側ボタン左上のランプが点灯している時、演奏音の音量ボタンは、低音側の音量調節ボタンになります)。また、全体的な音量は総合音量レバーで調節します。

⑤ 高音側の音色指定/音量調節を可能に

低音側ボタンを押して、



ボタン左上のランプを消灯させ、高音側の音色指定および音量調節をできるようにします。

⑥ 高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、音色の選択ボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

⑦ 高音側の音量調節

必要であれば、高音側の音量を演奏音の音量ボタンで調節します。

★スプリット演奏状態にした場合は高音側の同時発音数は4音ですが、アンサンブル機能またはデュアルボイス機能を使うと同時発音数はこれよりも少なくなります。(34ページ参照)

★電源スイッチを入にした時は、いつも、高音側、低音側共に音色は音色番号00のピアノに戻っています。

● 練習曲 「青い影」のイントロを弾いてみましょう。左手(低音側)でベースパート、右手(高音側)でメロディーパートを弾きます。

青い影 (A WHITER SHADE OF PALE)

作曲: K. Reid & G. Brooker

● セッティング

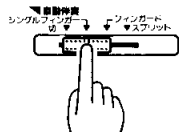
リズム	テンポ	自動伴奏スイッチ	低音側音色	高音側音色
05 ポップロック?	♩ = 92	スプリット	66 エレクトリックベースI	46 ジャズオルガン

8. シングルフィンガーコードで楽々演奏

シングルフィンガー機能を使うと、コードを押さなくても、簡単に和音+ベース音を鳴らすことができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。和音+ベース音は自動伴奏用鍵盤を弾いて鳴らします。さらにこの状態でリズムをスタートさせると、和音+ベース音だけでなく、ベース音、和音(コード)1、和音(コード)2、リズム音から成る自動伴奏を鳴らすことができます。

① シングルフィンガーコード演奏可能状態に

自動伴奏スイッチをシングルフィンガーの位置に切り替えます。



★シングルフィンガーの状態にすると、高音側の同時発音数が少なくなります。

② 高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、音色の選択ボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★低音側(自動伴奏用鍵盤)を弾いた時に鳴る音の音色は、指定したリズムの種類によって自動的に決まります。

③ リズム番号の指定

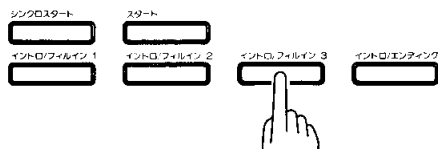
和音だけでなく、その他伴奏音全てを鳴らす場合は、リズム番号(伴奏スタイル番号)を指定します。

④ 音量調節

低音側の音量は伴奏の音量ボリュームボタンで、高音側の音量は演奏音の音量ボタンで調節します。また、全体的な音量は総合音量レバーで調節します。

⑤ スタート

自動伴奏を鳴らす場合は、スタート方法を選択します。



⑥ 演奏の開始

演奏を開始します。なお、自動伴奏は低音側の鍵盤(自動伴奏用鍵盤)を押した時点でスタートします。

★鍵盤の押し方

メジャーコードの場合

根音の鍵盤を押します。たとえばコードCの場合なら、



Cの鍵盤を押します。

マイナーコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_mの場合なら、



のように押します。

セブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC₇の場合なら、



のように押します。

マイナーセブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)と黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_{m7}の場合なら、



のように押します。

★コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

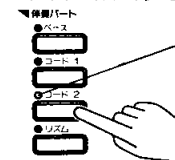
★シングルフィンガーの場合は、低音側の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばOKです。

★上記のコード以外は、次のように置き換えて押しください。

- ・Maj7(メジャー セブンス)
 - ・aug(オーギュメント)
 - ・dim(ディミニッシュ)
 - ・6th(シックス)
 - ・sus4(サスフォー)
- } →メジャーコード
- ・m7-5(マイナー セブンス
フラット ファイブ)
 - ・m6(マイナー シックス)
- } →マイナーコード
- ・7sus4(セブンス サスフォー)
 - ・7-5(セブンス フラット ファイブ)
- } →セブンスコード

⑦ パートオフ操作

自動伴奏を鳴らしている場合でも、パートごとに、音を鳴らすか鳴らさないか指定できます。鳴らしたくないパート音に該当するボタンを押してください。



ボタン左上のランプを消灯させることにより、そのパート音を鳴らすことをやめさせることができます。

⑧ 演奏の終了

演奏を終了します。なお、自動伴奏は、ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押すと終了します。

シングルフィンガーコード一覧表

検出できるシングルフィンガーコードの一覧表です。
これら以外は、前ページで示したように置き換えて押してください。

メジャーコード

そのコード名の鍵盤を押します。

C	
C [♯] /D [♭]	
D	
D [♯] /E [♭]	
E	
F	
F [♯] /G [♭]	
G	
G [♯] /A [♭]	
A	
A [♯] /B [♭]	
B	

マイナーコード

そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵を同時に押します。

Cm	
C [♯] m/D [♭] m	
Dm	
D [♯] m/E [♭] m	
Em	
Fm	
F [♯] m/G [♭] m	
Gm	
G [♯] m/A [♭] m	
Am	
A [♯] m/B [♭] m	
Bm	

セブンスコード

そのコード名の鍵盤と、左の白鍵を同時に押します。

C ₇	
C [#] ₇ /D ^b ₇	
D ₇	
D [#] ₇ /E ^b ₇	
E ₇	
F ₇	
F [#] ₇ /G ^b ₇	
G ₇	
G [#] ₇ /A ^b ₇	
A ₇	
A [#] ₇ /B ^b ₇	
B ₇	

マイナーセブンスコード

そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵と白鍵を同時に押します。

Cm ₇	
C [#] m ₇ /D ^b m ₇	
Dm ₇	
D [#] m ₇ /E ^b m ₇	
Em ₇	
Fm ₇	
F [#] m ₇ /G ^b m ₇	
Gm ₇	
G [#] m ₇ /A ^b m ₇	
Am ₇	
A [#] m ₇ /B ^b m ₇	
Bm ₇	

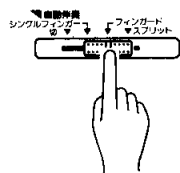
4. ステップ2 (活用編1)

1. フィンガードコードで演奏

フィンガード機能を使って、自動伴奏させてみましょう。フィンガード機能を使う場合は、普通のコードの押え方で低音側の鍵盤を弾きます。なおフィンガード機能を使った場合は、シングルフィンガー機能を使った場合に比べて、より多くのコードを使い分けることができるため、演奏しようとする曲が持つ本来の微妙な雰囲気表現しやすくなります。

① フィンガードコード演奏可能状態に

自動伴奏スイッチをフィンガードの位置に切り替えます。



★フィンガードの状態にすると、高音側の同時発音数が少なくなります。

② 高音側の音色指定

高音側の鍵盤を弾いた時に鳴るようにする音色を、音色の選択ボタンで指定します。

★デュアルボイス機能もオンしている場合は、この状態で、高音側の2音色分を指定してください。続けて指定すればOKです。

★低音側(自動伴奏用鍵盤)を弾いた時に鳴る音の音色は、指定した伴奏スタイルによって自動的に決まります。

③ 伴奏スタイル番号の指定

自分が演奏しようとする曲に最も適した伴奏スタイル番号を指定します。

④ 音量調節

低音側(伴奏音)の音量は伴奏の音量ボリュームボタンで、高音側の音量は演奏音の音量ボタンで調節します。また、全体的な音量は総合音量レバーで調節します。

⑤ スタート

スタート方法を選択します。スタート方法には大きく分けて、スタート、シンクロスタート、イントロスタートの3種類があります。

⑥ 演奏の開始

演奏を開始します。なお、自動伴奏は低音側の鍵盤(自動伴奏用鍵盤)を押した時点でスタートします。

★低音側の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばOKです。

★コードを変える時、鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

★フィンガードの場合は、次の13種類のコードを検出できます。その他のコードは、これらのコードに置き換えて押してください。(19、20ページの“フィンガードコード一覧表”を参照)

- ・メジャー
- ・マイナー
- ・セブンス
- ・マイナー セブンス
- ・メジャー セブンス
- ・オーギュメント
- ・ディミニッシュ
- ・シックス
- ・マイナー メジャー セブンス
- ・マイナー セブンス フラット ファイブ
- ・マイナー シックス
- ・セブンス サスフォー
- ・セブンス フラット ファイブ

★シックス、マイナーシックス、セブンスフラットファイブコードは、基本形で押さえた場合のみ検出されません。

★オーギュメントコードおよびディミニッシュコードは、押さえた鍵盤の最低音が根音となります。

★13種類のコード以外や押鍵ミスの場合は、正しい和音で鳴らなくなります。

★演奏中にシンクロスタートボタンを押すと自動伴奏が止まり、低音側の鍵盤を押すと再びスタートします。ブレイクの時に便利です。

⑦ パートオフ操作

パートごとに、音を鳴らすか鳴らさないか指定できます。鳴らしたくないパート音に該当する伴奏パートボタンを押して、ボタン左上のランプを消灯させてください。

⑧ 演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して演奏を終了します。

●練習曲

シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードで、「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう。

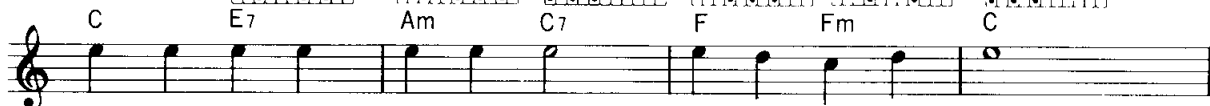
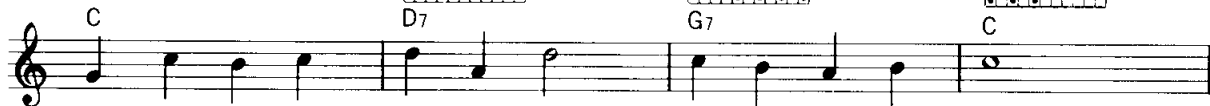
ラブ・ミー・テンダー (LOVE ME TENDER)

作詞・作曲：F. Presley & V. Matson

●セッティング

リズム	テンポ	自動伴奏スイッチ	高音側音色
09 ロックバロック	♩ = 88	シングルフィンガーまたはフィンガード	30 クラリネット

シングル
フィンガー
コード
フィンガード
コード





日本音楽著作権協会(出)許諾第9070397-001号
Copyright © 1956 by ELVIS PRESLEY MUSIC, INC.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.


フィンガードコード一覧表


*マークの付いたコードは転回形、それ以外は全て基本形で書かれています。


メジャー コード


C 


C# (Db) 


D 


D# (Eb) 


E 


F 


F# (Gb) 

G 


G# (Ab) 


A 


A# (Bb) 


B 


マイナー コード


Cm 

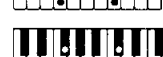
C#m (Dbm) 


Dm 


D#m (Ebm) 


Em 


Fm 


F#m (Gbm) 

Gm 


G#m (Abm) 


Am 


A#m (Bbm) 


Bm 


セブンス コード


C7 


C#7 (Db7) 


D7 


D#7 (Eb7) 


E7 


F7 


F#7 (Gb7) 

G7 


G#7 (Ab7) 


A7 


A#7 (Bb7) 


B7 


マイナー セブンス コード


Cm7 


C#m7 (Dbm7) 


Dm7 


D#m7 (Ebm7) 


Em7 


Fm7 


F#m7 (Gbm7) 

Gm7 


G#m7 (Abm7) 


Am7 


A#m7 (Bbm7) 


Bm7 


メジャー セブンス コード


CM7 


C#M7 (DbM7) 


DM7 


D#M7 (EbM7) 


EM7 


FM7 


F#M7 (GbM7) 

GM7 


G#M7 (AbM7) 


AM7 


A#M7 (BbM7) 


BM7 


オーギュメント コード


Caug 


C#aug (Dbaug) 


Daug 


D#aug (Ebaug) 


Eaug 


Faug 


F#aug (Gbaug) 

Gaug 


G#aug (Abaug) 


Aaug 


A#aug (Bbaug) 


Baug 

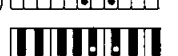
ディミニッシュ コード


Cdim 


C#dim (Dbdim) 


Ddim 


D#dim (Ebdim) 


Edim 


Fdim 


F#dim (Gbdim) 

Gdim 


G#dim (Abdim) 


Adim 


A#dim (Bbdim) 


Bdim 

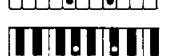
シックス コード


C6 


C#6 (Db6) 


D6 


D#6 (Eb6) 


E6 


F6 


F#6 (Gb6) 

G6 

G#6 (Ab6) 

A6 

A#6 (Bb6) 

B6 

マイナー メジャー セブンス
コード



マイナー セブンス フラット
ファイブ コード



マイナー シックス コード



セブンス サスフォー コード



セブンス フラット ファイブ
コード



2. ソロスタイルでパフォーマンス(ソロスタイルプレイ)

ソロスタイル機能をオンにすると、演奏中の曲に自動的に付加音や効果が加わるようになります。どのような付加音や効果が加わるかは、伴奏スタイルごとに決まっています。たとえば伴奏スタイル番号03のロックンロール3を指定した場合には、ハーモニー、カウンターメロディー、グリッサンド音が自動的に加わります。また、34のピックバンド2を指定した場合には、「かえるの合唱」のように、高音側の演奏内容が次の小節に自動的に繰り返される。といった具合です。色々な伴奏スタイルを選んで演奏し、実際にどのようになるか確認してみてください。

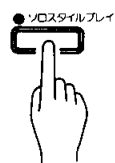
なお、この機能を使った場合は高音側の鍵盤での演奏が単音に制限されます。

①演奏モードの指定

自動伴奏スイッチで、シングルフィンガーで演奏するかフィンガードで演奏するか指定します。

②ソロスタイルプレイをオン

ソロスタイルプレイボタンを押して、ソロスタイルプレイ機能をオンにします。



ボタン左上のランプを点灯させた状態が、オンの状態

★この操作をした時点で、自動伴奏スイッチがフィンガードの位置になっている場合以外は、必ずシングルフィンガーに自動設定されます。

★この操作をした時点で、自動的にシンクロスタート待機状態になります。

③伴奏スタイルの指示

伴奏スタイル(リズム)を指示します。

④演奏の開始

演奏を開始します。自動伴奏用鍵盤を弾くと、自動伴奏がスタートします。

⑤演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。

★リズムを停止させた状態でも、リズムによっては付加音や効果音加わるものがあります。

★スタイルによっては高音側の演奏をしガートで弾くと、後で押された音が発音しないことがあります。

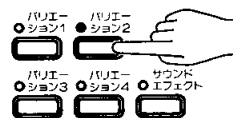
3. 打楽器を担当してしまおう(打楽器ボタン)

6つの打楽器ボタンを使い、自分で打楽器を担当することができます。(右頁の図参照)各ボタンに各打楽器が割り当てられていますので、ボタンを押すことにより音を出すことができます。他の楽器とアンサンブルをしたり、PSR-48で曲を演奏している途中で打楽器音をフィルインすることができます。

①打楽器の割り付け

5種類の打楽器グループの中から、打楽器ボタンに割り付けるグループを指定します。バリエーション1~4、サウンドエフェクトのいずれかのボタンを押してください。

たとえば、バリエーション2のボタンを押すと、



6つの打楽器ボタンは左から順に、バスドラム、ロータム(シンセ)、ミッドタム(シンセ)、…のようになります。

②演奏します

6つのボタンを、リズムどおりにうまく組み合わせて押してください。



★打楽器音の音量は総合音量レバーの設定によっても変化しますが、伴奏の音量ボタンによる設定によっても変化します。必要であれば、伴奏の音量ボタンで音量調節してください。2桁LEDディスプレイを見ながら1~9の範囲で調節できます。

★PSR-48にあらかじめセットされているリズムを鳴らしながら、それに合わせて打楽器音を加えることもできます。

シンクロブレイク

シンクロブレイクボタンを押してボタン左上のランプを点灯させておくと、シンクロブレイクが可能になります。シンクロブレイクは、PSR-48にあらかじめセットされているリズムを鳴らしている途中で、打楽器ボタンを押してリズムのフィルインを自分で演奏すると、その間リズムは休止している機能です。



★小節の終わりから16分音符以内に打楽器ボタンが押されないと、次の小節から再びリズムが鳴りだします。

打楽器ボタン

グループ指定用ボタン	バリエーション1		リムショット		ロータム (ノーマル)		ミッドタム (ノーマル)		ハイタム (ノーマル)		ハイハット (クローズ)		ハイハット (オープン)
	バリエーション2		バスドラム		ロータム (シンセ)		ミッドタム (シンセ)		ハイタム (シンセ)		スネアドラム		ライド シンバル
	バリエーション3		アゴゴ (ロー)		アゴゴ (ハイ)		クイーカ (ロー)		クイーカ (ハイ)		カバサ		クラッシュ シンバル
	バリエーション4		コンガ (ロー)		コンガ (ハイ)		ティンバル (ロー)		ティンバル (ハイ)		ボンゴ (ハイ)		カウベル
	サウンド エフェクト		人の声 (ハー！)		人の声 (イエー！)		車の クラクション		ピストルの 発射音		ガラスの 割れる音		ハンド クラップ

- ・(ノーマル)は、アコースティックドラムを意味します。
- ・(シンセ)は、シンセサイザードラム(エレクトロニックドラム)を意味します。

4. 自分の演奏を録音(ミュージックプログラマー)

自分の演奏を録音できます。録音できるのはリズムをスタートさせてから停止させるまでの間です。パネル上のボタンを見ても解るように、演奏音側(つまり高音側)の演奏と伴奏側(つまり低音側)の演奏をそれぞれ、録音するか再生するか選択してからスタートさせることができます。従って、低音側と高音側を一度に録音してしまうこともできますが、低音側をまず録音して、次にそれを再生しながら高音側を録音することもできます。(二度に分けて録音すると、後で録音する高音側の演奏時に、鍵盤の制限がなくなります。つまり、自動伴奏用鍵盤の範囲で弾いた内容も録音されます。)

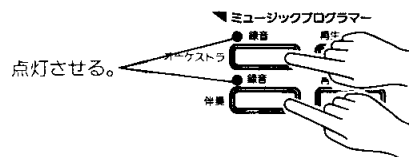
なお、録音時には高音側と低音側に、それぞれ次の内容が記憶されます。なお、録音中に設定を変えた場合、実際にそのタイミングで記録されます。

- ・高音側：演奏(高音側)情報、音色番号、アンサンブル機能のオン/オフ、サスティン効果のオン/オフ、演奏音の音量
- ・低音側：演奏(低音側)情報、伴奏スタイル番号、テンポ、イントロ、フィルイン、エンディング、ストップ、伴奏音の音量

- ★録音後、電源スイッチを切にすると録音した内容は消えてしまいます。
- ★録音の最大容量は、低音側が最大198小節(1小節に1コードずつ録音した場合は66小節程度)、高音側が最大120音符(4分音符きざみで録音した場合は100音符程度)です。ただし各種の設定操作の変更回数によっても大きく変わります。
- ★再録音すると、前の内容が消えてしまいます。

高音側と低音側を一度に録音する場合

- ①伴奏スタイルの選択
録音する曲に合った伴奏スタイルを選んでください。
- ②演奏モードの指定
自動伴奏スイッチで、シングルフィンガーで演奏するかフィンガードで演奏するか指定します。
- ③テンポ調節
演奏しやすい速さにします。
- ④必要に応じて効果をオン
アンサンブル機能、サスティン効果をオンにしておくことができます。
- ⑤音色の指定
高音側の音色を指定します。
- ⑥音量の調節
高音側の音量と低音側の音量を、演奏音の音量ボタンおよび伴奏の音量ボタンでそれぞれ調節できます。
★総合音量レバー調節による全体の音量については、記憶されません。演奏しやすい音量にすればOKです。
- ⑦録音スタート待ちの状態に
オーケストラ録音ボタンと伴奏録音ボタンをそれぞれ押します。



- ★録音スタート待ちの状態にすると、メトロノーム音が1拍ごとに鳴りだします。
- ★この操作をした時点で、自動伴奏スイッチがフィンガードの位置になっている場合以外は、必ずシングルフィンガーに自動設定されます。
- ★この操作をした時点で、シンクロスタート待ちの状態になります。

⑧必要に応じてスタート方法を変更

シンクロスタートをやめて、スタートやイントロスタートに変更することもできます。変更する場合はそれぞれのボタンを押しますが、ボタンを押した時点から録音が始まります。

⑨演奏の開始

シンクロスタートの場合には、演奏を開始した時点から録音が始まります。

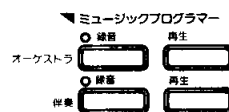
⑩必要に応じて……

演奏の途中で伴奏スタイルやテンポ、音色などを変更したり、フィルインを入れたり、効果をオン/オフすることができます。これらの操作も実際に記録されます。

⑪演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して演奏を終了します。リズムが止まった時点で録音終了です。

録音が終了すると、



録音ボタン左上のランプが消灯します。

- ★録音ボタンや再生ボタンを押して、録音を終了させることもできます。
- ★記憶容量が一杯になると、録音がそこで強制的に終了します。
- ★録音中に演奏を失敗した時は、シンクロスタートボタンを押してください。⑧の操作からやり直すことができます。

高音側と低音側を二回に分けて録音する場合

1. 低音側の録音

- ①伴奏スタイルの選択
録音する曲に合った伴奏スタイルを選んでください。
- ②演奏モードの指定
自動伴奏スイッチで、シングルフィンガーで演奏するかフィンガードで演奏するか指定します。
- ③テンポ調節
演奏しやすい速さにします。
- ④音量の調節
低音側の音量を、伴奏の音量ボタンで調節できます。

⑤録音スタート待ちの状態に

伴奏録音ボタンを押して、ボタン左上のランプを点灯させます。

⑥必要に応じてスタート方法を変更

シンクロスタートをやめて、スタートやイントロスタートに変更することもできます。変更する場合はそれぞれのボタンを押しますが、ボタンを押した時点から録音が始まります。

⑦演奏の開始

シンクロスタートの場合には、演奏を開始した時点から録音が始まります。

⑧必要に応じて……

演奏の途中で伴奏スタイルやテンポを変更したり、フィルインを入れることができます。これらの操作も実際に記録されます。

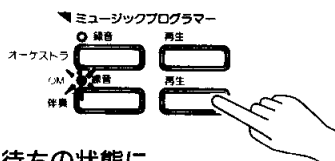
⑨演奏の終了

ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して演奏を終了します。リズムが止まった時点で録音終了です。

2. 高音側の録音

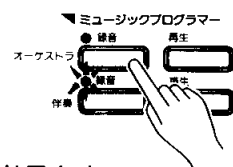
①低音側を再生スタート待ちの状態に

伴奏再生ボタンを押して、伴奏録音ボタン左上のランプを点滅させます。



②録音スタート待ちの状態に

オーケストラ録音ボタンを押して、ボタン左上のランプを点灯させます。



③必要に応じて効果をオン

アンサンブル機能、サスティン効果をオンにしておくことができます。

④音色の指定

高音側の音色を指定します。

⑤音量の調節

高音側の音量を、演奏音の音量ボタンで調節できます。

⑥スタート方法の変更

シンクロスタートをやめて、スタートまたはイントロスタートに変更します(このようにしないと、どんな曲でも曲の頭から高音側の演奏を始めなければならなくなります)。該当するボタンを押して低音側の再生をスタートさせます。

★イントロスタートさせても、イントロは記憶されません。

⑦演奏の開始

低音側の再生音に合わせて、高音側の演奏をします。

⑧必要に応じて……

演奏の途中で音色を変更したり、効果をオン/オフすることができます。これらの操作も実際に記録されます。

⑨演奏の終了

低音側の再生が終了した時点で、録音が終了します。また、ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して再生および録音を終了させることもできます。リズムが止まった時点で録音終了です。

再生

①再生スタート待ちの状態に

高音側と低音側の両方を再生する場合は両方の再生ボタンを押して、片方だけの時は該当する方の再生ボタンだけを押します。すると再生スタート待ちの状態になります。

両方のランプを点滅させる。

(片方だけ再生させることも可能)



★この操作をした時点で、シンクロスタート待ちの状態になります。

★低音側だけ再生させて、それに合わせて演奏することも可能です。

②再生の開始

鍵盤またはスタートボタンを押すと、すぐに再生が始まります。またイントロ/フィルイン1~4ボタン、イントロ/エンディングボタンのいずれかを押してイントロパターンを付けて再生させることもできます。

③音量の調節

各音量を調節できます。

④必要に応じて……

再生音に合わせて、演奏することも可能です。

⑤再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でストップボタンやイントロ/エンディングボタンを押して終了させることも可能です。

★再生終了後、再び再生スタート待ちの状態になります。再生スタート待ちを解除する時は、再生ボタンまたはストップボタンを押して、ランプを消灯させてください。

★テンポや伴奏スタイルを変えて再生させたり、フィルインを入れることも可能です。

★録音時と異なったビート(3/4、4/4、9/8、12/8、15/8拍子の区別)のリズムを選ぶと、録音時とは違ったタイミングで再生されます。

★同時発音数には制限があります。

●練習曲

とんぼ

作詞・作曲：長瀬剛

ミュージックプログラマーの機能を使い、あらかじめコードを伴奏の方に、オブリガートをオーケストラの方に記憶させておきます。そして、それらを再生させてメロディーを弾けばOKです。

コードはシングルフィンガーコード、フィンガードコードのどちらで弾いてもかまいません。

※リズムの種類、テンポ、伴奏パートのオン/オフ、フィルイン、エンディング、サスティン/オンはコード演奏の際アカンパニメントに記憶させ、音色の切り替えはオブリガートのオーケストラの方に記憶させます。

●セッティング

リズム	テンポ	伴奏パート	音色	効果
02 ロックンロール2	♩ = 112	ベースオン、コード1オン、コード2オン、リズムオン	33 サックス	サスティン/オン

イントロ

メロディー

Woo Woo- Woo WooWooWoo-

オブリガート

音色：34 ハーモニカ コード2 オフ

メロディー

コツコ ツとアスファルトに きざむ あしお とをふみしめるた びに おれは

らな ころたちか みえ て やりき れないよるをかぞ え のがれ

オブリガート

メロディー

おれーで ありつ づけたい そうね がつた うらは

られない やみの

オブリガート

音色：44 シンセプラス2

メロディー

なか で きょうも ねむったふりをす る しに たいくらいにあこ がれた はなの

いたにかいすなを かむと ねじふ

(2×休み)

オブリガート

シングルフィンガーコード



フィンガードコード



G D7 Em

みやこだーいとう きょう うすつ べらな ポストンバッグ きたへきたへむ かった ざらつ
 せられた しょうじき きが いまこ

2 フィルイン1 コード2オン
 音色: 47 ロックオルガン

-D7 G G

ろに なって や けにほねみにしみる あ あ しあわ
 しあわ

D7 Em C 1 G D7

せのー とんぼ よ どこへー おまえは どこへー とーんでゆ
 せのー とんぼ がー ほ ら したを
 (2×休み)

エンディング

G D7 2 G D7 G

く あ だしてー わらってらー

5. ステップ3 (活用編II)

1. リズムパターンを作ろう (カスタムドラマー)

PSR-48には100種類のリズムがあらかじめセットされていますが、自分で2小節のリズムパターンを1種類作成することができます。作成後は、このパターンを呼び出して自由に使用できるようになります。

リズムパターンの作成

①最も近いリズムを指定

作成するリズムに最も近いリズムを選びます。

②パターン作成状態に

プログラムボタンを押します。するとパターン作成状態になり、選んだリズムが鳴りだします。



③作成しやすい状態に

テンポや音量を調節します。

④リズムの作成

・最初からリズムを作りたい場合は？

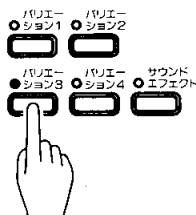
現在鳴っている打楽器音全てをパターン上から消してしまいたい場合は、消去ボタンを押します。すると、それまで鳴っていた打楽器音が全て消え、最初からリズムを作ることができるようになります。なお、リズム音の代わりにメトロノーム音がハイハットクローズの音色で鳴り出します。(このメトロノーム音は仮の音であり、後で再生する時には鳴りません。)



・打楽器音を加える場合は？

バリエーション1~4およびサウンドエフェクトボタンを押して、打楽器ボタンに対して打楽器の割り付けを行ったら(21ページ参照)、実際にリズムに合わせて打楽器ボタンをタイミングよく押して、打楽器音を加えていきます。2小節のリズムは終了の操作を行うまで繰り返し鳴りますので、1音1音少しずつ加えていけばOKです。

まず、打楽器ボタンに対して割り付けを行い、



次に、実際に音を加えていきます。



★同タイミングで、最大4種類の打楽器音を一度に鳴らすようにできます。

★最大8種類の打楽器器を使ってパターン作成できます。

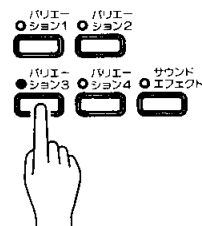
・特定の打楽器の音を消してしまいたい場合は？

必要のない特定の打楽器の音を、2小節間に渡って一度に消してしまうことができます。なお、目標とするリズムに近いが少しだけでもタイミングが違ったり、余分なタイミングで入っている場合も、この方法で一度に消してしまうしかありません。

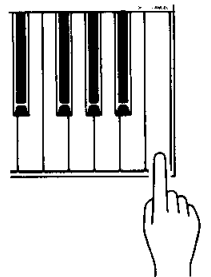
まず最初に必要のない打楽器音を打楽器ボタンに割り付けます。バリエーション1~4およびサウンドエフェクトボタンを押して、打楽器ボタンに対して割り付けを行ってください。

そして次に、キャンセル用鍵盤(一番右側の鍵盤)を押しながら、消してしまいたい打楽器のボタンを押します。すると、その打楽器の音がパターン上から消えます。

まず、打楽器ボタンに対して割り付けを行い、

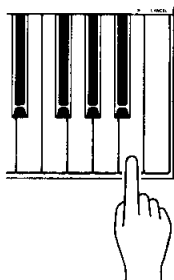


次に、キャンセル用鍵盤を押しながら、その打楽器音のボタンを押します。



・強拍にする場合は？

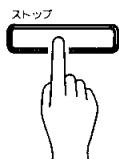
希望する打楽器の音を希望するタイミングで強拍にできます。たとえば3拍目のバスドラムの音を強拍にしたい場合は、3拍目のタイミングで、アクセント用鍵盤(右から2番目の鍵盤)とバスドラムにしたボタンを押してください。



★一度強拍にした音の強拍だけを解除することはできません。その音を消して、再び強拍なしで入力してください。

⑤作成の終了

ストップボタンを押して、作成を終了します。

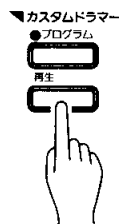


★作成したパターンは、電源スイッチを切にしたり、プログラムボタンを押すと消えてしまいます。

作成したリズムパターンの再生

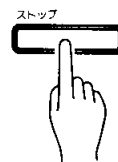
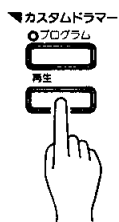
①スタート

再生ボタンを押すことにより、作成したリズムパターンを鳴らすことができます。



②停止

もう一度再生ボタンを押すか、ストップボタン等を押します。



★作成したパターンを使って自動伴奏させた場合は、基本的な伴奏パターンになります。

簡単なディスコのリズムパターンに挑戦！

リズム番号00のディスコのリズムを選び、それを一度クリアしたうえで、打楽器ボタンを押してリズムパターンを作成します。テンポを表わす3桁LEDディスプレイの点灯と、メトロノーム音で拍数を確認しながら押しましょう。

メトロノーム音の間隔は1拍(♩)、ディスコのリズムは4/4拍子ですから、つまり1小節間で“チッ・チッ・チッ・チッ”と4回鳴り、2小節間では8回鳴ります。

※PSR-48のリズムは、3/4、4/4、9/8、15/8、12/8拍子の5種類に分類されます。カスタムドラマー機能で作成できるリズムパターンは選んだリズムが元になりますので、たとえばワルツで4拍子のパターンを作ったり、12/8拍子のリズムで8ビートのパターンを作ることはできません。

2. 他の機器と接続するには？

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。

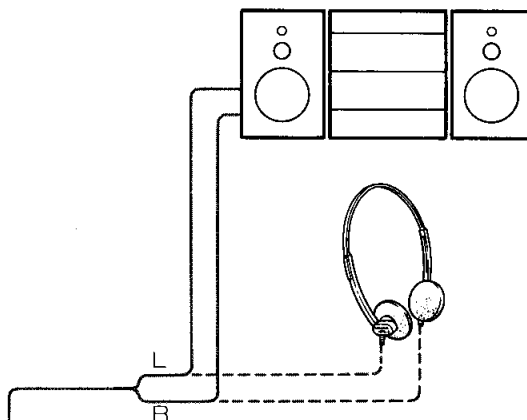
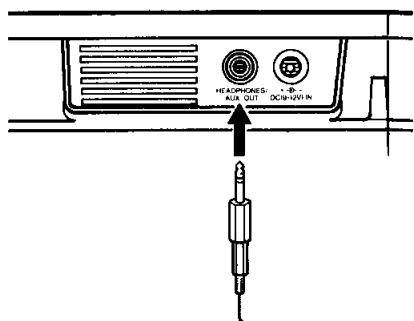
・ヘッドホン/AUX出力端子

この端子を使いステレオなどに接続して、より大きな音で鳴らしたり、カセットテープに演奏を録音することができます。また、ヘッドホンを接続して外に音を出さずに演奏できます。

※ステレオに接続した時はPSR-48の総合音量レバーは8分目にして、ステレオのボリュームで音量を調節してください。

※この端子にプラグを差し込むと、PSR-48のスピーカーからは音が出なくなります。

※ステレオに接続する場合は、接続コード(33ページ参照)とステレオ変換プラグが必要です。



・電源アダプター接続用端子(2ページ参照)

付属の電源アダプター・PA-4を接続するための端子です。

・MIDI端子(29ページ参照)

この端子を使い他のMIDI機器と接続して、MIDIに関する情報をやりとりさせることができます。そして、様々なコントロールが可能です。

3. MIDI機能でステップアップ

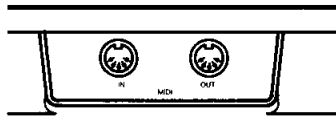
PSR-48はMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法を順に紹介します。

MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。

本機のMIDI端子

本機には、次のように2種類のMIDI端子があります。



MIDI OUT(ミディアウト)

PSR-48の演奏情報をデジタル信号で出力します。

MIDI IN(ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏情報を入力します。

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル

(MIDI-15: 15m) ¥3,000(消費税は含まず)

(MIDI-03: 3m) ¥1,100(消費税は含まず)

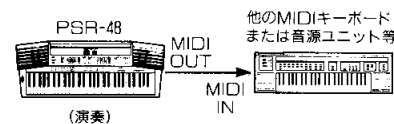


MIDIでできること

MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合

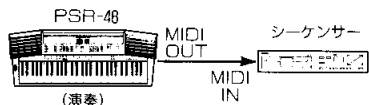


★PSR-48で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

★PSR-48で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合

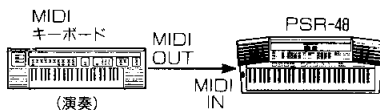
(MIDI信号などデジタル情報で演奏を記録する機器は、一般にシーケンサーと呼ばれています。)



- ★PSR-48で演奏する内容を、MIDIシーケンサーに記録できます。MIDIシーケンサーには多くの曲を記録しておくことができ、後でそれを自由に再生できます。
- ★弾いた音符の情報だけでなく、音色の切替情報や様々な情報(後述)も同時に記録できます。

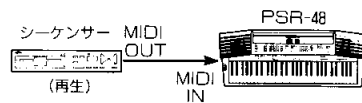
MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



- ★外部のMIDIキーボードで演奏すると、PSR-48が同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えと、PSR-48の音色も同時に切り替えます。
- ★この他に下記のような情報を受け取って、PSR-48がコントロールされます。
 - ・音量変化の情報(総合音量レバー)
 - ・サスティン効果のオン/オフ情報

◆MIDIシーケンサーに接続した場合



- ★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、PSR-48の音色で再生できます。

MIDIのモード設定と機能

設定方法

*操作①から④に移る時、MIDIボタンは離さないでください。

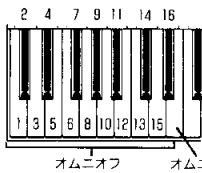
設定項目	操作① (MIDIボタンを押しながら)	操作② (MIDIボタンを押しながら)	表示および設定画面
リモートコントロールモード/標準音色モードの切替	音色の選択ボタンの を押して指定する。		リモートコントロールモード 標準音色モード ,
MIDI送信チャンネルの設定	音色の選択ボタンの を押す。	該当する自動伴奏用鍵盤を押して指定する。(図A参照)	チャンネル1 チャンネル16 ~
MIDI受信チャンネルの設定	音色の選択ボタンの を押す。	該当する自動伴奏用鍵盤を押して指定する。(図B参照)	オムニオン+チャンネル1 オムニオフ+チャンネル1 オムニオフ+チャンネル16 , ~
スプリット送信モードオン/オフの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	音色の選択ボタンの を押す。	音色の選択ボタンの / を押して指定する。	オン オフ ,
プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオン/オフの切替	音色の選択ボタンの を押す。	音色の選択ボタンの / を押して指定する。	オン オフ ,
外部クロック/内部クロックの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	音色の選択ボタンの を押す。	音色の選択ボタンの / を押して指定する。	外部クロック 内部クロック ,
ローカルコントロールオン/オフの切替(リモートコントロール時のみ設定可能)	音色の選択ボタンの を押す。	音色の選択ボタンの / を押して指定する。	オン オフ ,
リズム受信チャンネルの設定(標準音色モード時のみ動作可能)	音色の選択ボタンの を押す。	該当する自動伴奏用鍵盤を押して指定する。(図A参照)	チャンネル1 チャンネル16 ,

現在、標準音色モードの場合……
 操作③：操作②で指定したチャンネルのオン/オフを、 ボタンを押しながら、音色の選択ボタンの / で指定する。
 オン オフ
 ,
 操作④：操作③を繰り返して、他のチャンネルも指定する。

図A



図B



◆リモートコントロールモード/標準音色モードの切替

リモートコントロールモードは、PSR-48を送信側に接続してマスターキーボードとして使用することを前提としたモードです。通常はこのモードにしておきます。なお、このモードでPSR-48を受信側にした場合は、ある1つのチャンネルの情報のみ受信できます。

これに対し標準音色モードは、PSR-48を受信側に接続して音源として使用すること前提としたモードです。標準音色モードにすると、同時に複数のチャンネルの情報を受信できるようになります。たとえばMIDIシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をPSR-48に受信させ、同時に複数の音色で鳴らしたい時に、標準音色モードにします。

- ★チャンネルについては、次項の“MIDIチャンネルの設定”を参照。
- ★電源スイッチを入にした時は、必ずリモートコントロールモードとなっています。
- ★同時発音数は基本的に演奏音が8音、リズム音が7音です。

◆MIDIチャンネルの設定

送信チャンネルと受信チャンネルを、それぞれ任意に設定できます。

- ★電源スイッチを入にした時は、必ず送信チャンネルはチャンネル1、受信チャンネルはオムニオフ+チャンネル1となっています。
- ★オムニオンはチャンネル設定に関係なく、どのチャンネルメッセージでも受信できる状態で、オムニオフは指定したチャンネルの情報だけを受信できる状態です。

◆スプリット送信モードオン/オフの切替

シングルフィンガー、フィンガード、スプリット状態の時に、スプリット送信モードオンという状態にすると、低音側と高音側の演奏情報が、異なるチャンネルで送信されるようになります。

「PSR-48上で低音部と高音部を異なる音色で鳴らすだけでなく、外部の製品側でもそうしたい。」という場合、スプリット送信モードオンにしてください。

★低音側の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部の製品のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。

また高音側の演奏情報は“MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。

★低音側と高音側の演奏情報を、MIDIシーケンサーに別々のチャンネルで記録することも可能です。

★PSR-48を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。

★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。

★電源スイッチを入にした時は、必ずスプリット送信モードオフとなっています。

◆プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオン/オフの切替

プログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオンという状態にすると、PSR-48で音色を切り替えたり、演奏音の音量を調節したり、サスティンボタンをオン/オフしても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けてもPSR-48の状態は変わりません。

つまり、PSR-48だけで単独に操作したい場合(他の機器と連動させたくない場合)には、キャンセルオンにしてください。

★電源スイッチを入にした時は、必ずプログラムチェンジ&コントロールチェンジ・キャンセルオフとなっています。

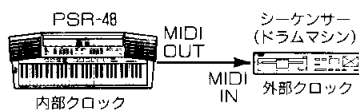
★この機能の設定は、リモートコントロールモードの場合は送受信共に有効ですが、標準音色モードの場合は送信のみ有効です。

◆外部クロック/内部クロックの切替

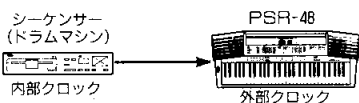
本機のリズムを制御するクロックを選択できます。

外部クロックにすると、PSR-48のリズムの速さが外部のシーケンサーやドラムマシンによってコントロールされるようになり、内部クロックにすると、PSR-48のリズムの速さはPSR-48自身によってコントロールされるようになります。

★外部シーケンサーやドラムマシンの再生スピードを、PSR-48のリズムの速さに合わせる場合は、次のようにセットしてください。



★PSR-48のリズムの速さを、外部のシーケンサーやドラムマシンの再生スピードに合わせている場合は、次のようにセットしてください。



★電源スイッチを入にした時は、必ず内部クロックとなっています。

★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、PSR-48で演奏したにもかかわらずPSR-48自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製品側だけで鳴らしたい場合に、PSR-48で音が出ないようにするためのものです。

★PSR-48を受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★電源スイッチを入にした時は、必ずローカルコントロールオンとなっています。

★標準音色モードの場合は、この機能は存在しません。常にローカルコントロールオフの状態となっています。

◆リズム受信チャンネルの設定

(標準音色モード時のみ設定可能)

リズム音(打楽器音)の発音情報に対する受信チャンネルを設定できます。送信側のチャンネルと一致させてください。(前述の“受信チャンネルの設定”はリズム以外のパートに対するものです。)

★ここで指定したチャンネルと、リズムパート以外のチャンネルが重複した場合は、リズムが優先されます。

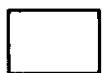
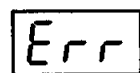
★電源スイッチを入にした時は、必ずリモートコントロールモードで、オムニオフ+受信チャンネル1となっています。またこの状態から標準音色モードに切り替えた時は、本設定はチャンネル16となっています。

★リモートコントロールモードの場合は、チャンネル設定はできますが、機能しません。

MIDIエラー表示

MIDI受信の際、送受信間のトラブルのために正確に情報がやりとりされなかったり、送受信バッファの容量を越えるデータが生じた場合は、次のようにMIDIエラーを意味する文字が表示されます。

この表示になった場合は電源スイッチを入にしなれて、再実行してください。ただし、送受信バッファの容量オーバーによるエラーの場合は、あらかじめデータをいくつか分割するなどしてください。



Error

MIDIインプリメンテーションチャート

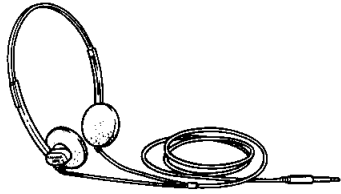
ファンクション	送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル		1チャンネル 1~16チャンネル			
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****		モード3 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			リモートコントロールモード の場合のみ
ノート ナンバー 音域	36~96 *****		36~96 ※1 36~96 ※2			
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	× 9nH、v=64 ※3 × 9nH、v=0		○ ※4 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		○ 0~2 semi			7ビット分解能
コントロール 07	○		○			ボリューム
チェンジ 64	○		○			サスティン
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○ 0~99 *****		○ 0~99 ※5 0~99			
エクスクループ	×		○			
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×		× × ×			
リアル タイム クロック コマンド	○ ○		○ ○			リモートコントロールモード の場合のみ
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ (122~125) ○ ×			
備考	※1 標準音色モードの場合は1~127 ※2 標準音色モードの場合は24~102 ※3 標準音色モードの場合はv=127 ※4 標準音色モードの場合のみ ※5 標準音色モードの場合は0~120					

モード1 : オムニ・オン、ポリ モード2 : オムニ・オン、モノ ○ : あり
 モード3 : オムニ・オフ、ポリ モード4 : オムニ・オフ、モノ × : なし

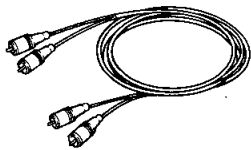
6. 資料

1. オプション(別売品)のご紹介

ステレオヘッドホン・HPE-3 ¥3,000



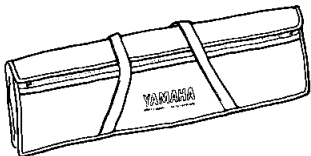
接続コード・PSC-3(ステレオ) ¥1,000



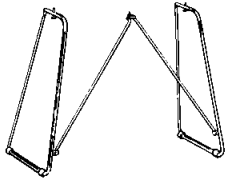
MIDIケーブル・MIDI-03(3m) ¥1,100



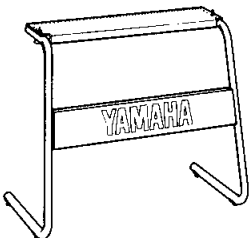
専用ソフトケース・SCC-32 ¥6,000



スタンド・L-2 ¥6,000



スタンド・L-4 ¥9,000



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

2. 仕様

- 鍵盤
- 一段鍵盤61鍵(C₁~C₈)
- ボイス(100音色)
- 00 ピアノ
- 01 ピアノ?
- 02 ホンキートンクピアノ
- 03 エレクトリックピアノ1
- 04 エレクトリックピアノ2
- 05 ハープシコード
- 06 クラビ
- 07 シンセクラビ
- 08 チェレスタ
- 09 おもちゃのピアノ
- 10 ピアノフォン
- 11 チャイム
- 12 シロホン
- 13 マリンバ
- 14 ハンマーマリンバ
- 15 ティンパニ
- 16 ステールドラム
- 17 カリンバ
- 18 ガムラン
- 19 オルゴール
- 20 ストリングス
- 21 ピチカートストリングス
- 22 シンセストリングス1
- 23 シンセストリングス2
- 24 バイオリン
- 25 チェロ
- 26 ハープ
- 27 フルーツ
- 28 パンフルート
- 29 リコーダー
- 30 クラリネット
- 31 オーボエ
- 32 バスーン
- 33 サックス
- 34 ハーモニカ
- 35 アコーデオン
- 36 バグパイプ
- 37 トランペット
- 38 ミュートトランペット
- 39 トロンボーン
- 40 ホルン
- 41 チューバ
- 42 プラスタンサンブル
- 43 シンセベース1
- 44 シンセベース2
- 45 バイオリン
- 46 ジャズオルガン
- 47 ロックオルガン
- 48 ストリートオルガン
- 49 リードオルガン
- 50 ヒューマンボックス
- 51 シンセボックス
- 52 口笛
- 53 クラシックギター
- 54 フォークギター
- 55 ジャズギター
- 56 ロックギター
- 57 デイスターションギター
- 58 ミュートギター
- 59 バンジョー
- 60 マンドリン
- 61 シタール
- 62 箏
- 63 三味線
- 64 コントラバス
- 65 弦弾きベース
- 66 エレクトリックベース
- 67 スラップベース
- 68 フレットレスベース
- 69 シンセベース1
- 70 シンセベース2
- 71 シンセベース3
- 72 アナログシンセ
- 73 リードシンセ
- 74 シンセオルゴール
- 75 スペースフルート
- 76 水中遊泳
- 77 風車
- 78 ファズラス
- 79 メタルリックリード
- 80 クリスタル
- 81 アイスクロック
- 82 シンセタム
- 83 シンパホイッスル
- 84 アフリカンパーカッション
- 85 鳥
- 86 デジタルスイープ
- 87 ハンマーショット
- 88 クリスタルブロック
- 89 インベーター
- 90 ショックアラーム
- 91 アウ!
- 92 水滴
- 93 非常警報
- 94 ビューツ
- 95 レーシングサーキット
- 96 こする音
- 97 工事中
- 98 波
- 99 オーケストラヒット
- 音色の選択ボタン(0~9、+、-)
- 音色のリスト(00~99)
- 低音側ボタン
- 効果
- サスティン1・2、アンサンブル、ピッチベンド、デュアルボイス
- ボリューム
- 演奏音の音量、伴奏の音量、総合音量
- アカンパニメント
- アカンパニメントスタイル(100種類)
- 00 ディスコ
- 01 ロックンロール1
- 02 ロックンロール2
- 03 ロックンロール3
- 04 ポップロック1
- 05 ポップロック2
- 06 16ビート1
- 07 16ビート2
- 08 ロックバラード
- 09 ロックパニック
- 10 クリスマスロック
- 11 オリエンタルロック
- 12 プラスロック
- 13 テクノロック1
- 14 テクノロック2
- 15 ハードロック
- 16 ヘビメタル
- 17 スピードメタル
- 18 フュージョン1
- 19 フュージョン2
- 20 ファンク1
- 21 ファンク2
- 22 ファンク3
- 23 ファンク4
- 24 ラップ
- 25 リズム&ブルース1
- 26 リズム&ブルース2
- 27 スローブルース
- 28 ゴスペル
- 29 スイングギター
- 30 スイングピアノ
- 31 スイングオルガン
- 32 スイングビブラフォン
- 33 ビッグバンド1
- 34 ビッグバンド2
- 35 ビッグバンド3
- 36 モダンジャズ
- 37 5/4スイング
- 38 ジャズバラード
- 39 ジャズブル
- 40 ブギウギピアノ1
- 41 ブギウギピアノ2
- 42 ブギウギピアノ3
- 43 ブギウギビッグバンド1
- 44 ブギウギビッグバンド2
- 45 ジャズパニック
- 46 テキシーランドコンボ
- 47 テキシーランドバンジョー
- 48 カントリー
- 49 カントリーピアノ
- 50 カントリーステールギター
- 51 ラグタイムピアノ
- 52 ブルーグラス
- 53 ホサノバ1
- 54 ホサノバ2
- 55 サンバ1
- 56 サンバ2
- 57 サンバ3
- 58 サルサ1
- 59 サルサ2
- 60 サルサ3
- 61 タンゴ
- 62 ハバネラ
- 63 マンボ1
- 64 マンボ2
- 65 マンボ3
- 66 ルンバ
- 67 チャチャチャ
- 68 コンガ
- 69 メレンゲ
- 70 カリブソ1
- 71 カリブソ2
- 72 レゲエ
- 73 キューバン
- 74 ビギン
- 75 マリアッチ
- 76 ボレロ
- 77 フラメンコ
- 78 サンアフロ
- 79 アルゼンチンフォルクローレ
- 80 アイランドフォルクローレ
- 81 マーチ1
- 82 マーチ2
- 83 荘厳なマーチ
- 84 ボルカ
- 85 バロック(ワルツ)
- 86 ビッグバンド(ワルツ)
- 87 ジャズワルツ
- 88 ウィンナワルツ
- 89 パニック
- 90 ララバイ
- 91 クラシックギター
- 92 ストリートオルガン
- 93 ファンファーレ
- 94 サファリ
- 95 ハワイアン
- 96 シャンソン
- 97 マンドリンバンド
- 98 弦楽4重奏
- 99 パーバーショップカルテット
- 伴奏スタイルの選択ボタン
- (0~9、+、-)
- 伴奏スタイルリスト
- (00~99)
- 伴奏パートボタン
- (ベース、コード1、コード2、リズム)
- リズムコントロール
- テンポ(▲、▼)、シンクロスタート、スタート、ストップ、イントロ/エンディング、イントロ/フィルイン1~3
- カスタムドラマー
- プログラム、再生、消去、シンクロフレイク、アクセント用鍵盤(B5共用)、キャンセル用鍵盤(C₄)
- ドラムパッド
- 打楽器ボタン(6種類)
- ・リムショット/バスドラム/アゴゴ(ロー)/コンガ(ロー)/人の声(ハー1)
- ・ロータム(ノーマル)/ロータム(シンセ)/アゴゴ(ハイ)/コンガ(ハイ)/人の声(イエー1)
- ・ミッドタム(ノーマル)/ミッドタム(シンセ)/クイーカー(ロー)/ティンパル(ロー)/車のクラクション
- ・ハイタム(ノーマル)/ハイタム(シンセ)/クイーカー(ハイ)/ティンパル(ハイ)/ピストルの発射音
- ・ハイハット(クローズ)/スネアドラム/カバサ/ボンゴ(ハイ)/ガラスの割れる音
- ・ハイハット(オープン)/ライドシンバル/クラッシュシンバル/カウベル/ハントクラップ
- 割り付け選択
- パリエーション1~4、サウンドエフェクト
- 自動伴奏スイッチ
- 切/シンクルフィンガー/フィンガード/スプリット
- ミュージックプログラマー
- オーケストラ録音、オーケストラ再生、伴奏録音、伴奏再生
- その他コントロール
- 電源スイッチ、トランスポーズ(▲▼)、ピッチ(▲▼)、ソロスタイルプレイ、デモンストレーション、MIDI
- ディスプレイ
- 2桁LEDディスプレイ(音色、ピッチ、トランスポーズ、演奏の音量)
- 3桁LEDディスプレイ(伴奏スタイル、ビート、テンポ、演奏の音量)
- 付属端子
- ヘッドホン/AUX出力端子、MIDI端子(IN, OUT)、電源アダプター接続用端子
- メインアンブ
- ステレオ、2.5W×2
- スピーカー
- 12cm(4.2)×2
- 定格電源
- DC9V:電源アダプター・PA-4
- 単1乾電池6本
- 消費電力
- 電源アダプター使用時:7.5W
- 乾電池使用時:3.8W
- 外装仕上げ
- スチロール樹脂・アクリルラッカー塗装
- 寸法(前面立て取り外し時)
- (開口)958mm×(奥行)365mm×(高さ)123mm
- 重量
- 6kg(乾電池重量含まず)
- 付属品
- 電源アダプター・PA-4、前面立て、和文シート

3. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思ったら、この表を見てください。

現象	原因	解決法
電源スイッチを入または切にした時、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
スピーカーから全く音が出ない。	音量が下がっている。	総合音量レバーを上げてください。
	ヘッドホン/AUX出力端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
	ローカルコントロールオフになっている。	ローカルコントロールオンに戻してください。(31ページ参照)
リズムがスタートしない。リズムの音が出ない。	外部クロックの状態になっている。	内部クロックの状態に戻してください。(31ページ参照)
	伴奏の音量が下がっている。	伴奏の音量を上げてください。
	スタートさせていない。	スタートボタン等を押してください。
	シンクロスタート待ちの状態になっている。	自動伴奏用鍵盤を押してください。
低音側の音が出ない。	伴奏の音量が下がっている。	伴奏の音量を上げてください。
	高音側を弾いている。	自動伴奏用鍵盤を押してください。
自動伴奏されない	シングルフィンガーまたはフィンガードの状態になっていない。	自動伴奏スイッチを、シングルフィンガーまたはフィンガードの位置にしてください。
	フィンガードの状態、シングルフィンガーの押さえ方をしている。	19ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
途中から音階がおかしくなる。	自動伴奏用鍵盤を押している。	シングルフィンガーやフィンガードの状態になっているため、そのようになります。
思った通りの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一目指を離したうえで、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえていない。	15ページの“シングルフィンガーコード一覧表”、19ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
ソロスタイルプレイ機能をオンできない。	ミュージックプログラマーが録音または再生状態になっている。	ソロスタイルプレイ機能とミュージックプログラマー機能を同時に使うことはできません。
スプリット機能をオンできない。	ソロスタイルプレイ機能を動かしている。ミュージックプログラマーが再生状態になっている。	スプリット機能は、ソロスタイルプレイ機能やミュージックプログラマー機能を動かしている時、動かせることができません。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	同時に鳴らせる音数には制限があります。	制限数以上の音は、鳴らないしくみになっています。
選んでいない音色で鳴る。	自動伴奏スイッチを切以外の位置にしている。	低音側の音色は高音側の音色と異なります。
効果がかからないパートがある。	かかるパートが決まっているため。	リズム音、コード音、ベース音には、ほとんどの場合効果はかかりません。
記憶させておいたデータが消えている。	電源を切った。	電源を切ると消えます。
パネル上のランプが暗くなったり、誤動作がおきたりする。	乾電池が寿命のため。	6本共新しい乾電池と交換してください。

4. 発音数一覧表

ここでは、各モードにおける同時発音数を表にします。

○：機能オン、×：機能オフ

リズム	シングルフィンガー/フィンガード	スプリット	同時発音数
×	×	×	演奏8(4)音、打楽器ボタン3音
○	×	×	演奏8(4)音、リズム4音、打楽器ボタン3音
○	○	×	高音側4(2)音、コード6音、ベース1音、リズム4音、打楽器ボタン3音
×	○	×	高音側4(2)音、コード6音、ベース1音、打楽器ボタン3音
○	×	○	高音側4(2)音、低音側4(2)音、リズム4音、打楽器ボタン3音
×	×	○	高音側4(2)音、低音側4(2)音、打楽器ボタン3音

()内の音数は、デュアルボイスオン時またはアンサンブルオン時の最大同時発音数を表わします。

ただし、デュアルボイスとアンサンブルの両方がオンの時は、さらにその半分になります。

5.アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1年です（日本国内のみ有効）
- 保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“おかしなと思ったら”の項をいま一度お読み直し、お確かめください。（ご依頼をお受けして点検いたしますと、故障でない場合でも点検代を申し受けることもございます）

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで休間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしなさいませんように）

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

〔修理受付および修理品お預り窓口〕

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011-513-5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022-236-0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL. 025-243-4321
松本サービスステーション	〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F TEL. 0263-32-5930
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル TEL. 03-255-2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ㈱宮竹工場内 TEL. 0534-65-1158
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ㈱名古屋流通センター3F TEL. 052-652-2230
京都サービスセンター	〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483 第2マスイビル3F TEL. 075-361-6470
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ㈱千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ㈱神戸店内 TEL. 078-321-1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ㈱高松店内 TEL. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
〔本社〕 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL. 0534-65-1158

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

北海道支店 LM営業課	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター TEL. 011-512-6113
仙台支店 LM営業課	〒980 仙台市青葉区大町2-2 10 住友生命仙台青葉通ビル TEL. 022 222-6140
東京支店 特販営業課	〒104 東京都中央区銀座7-9-18 ハールビル TEL. 03-572-3130
名古屋支店 LM営業課	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052-201-5150
大阪支店 特販営業課	〒542 大阪市中央区南船場3-12 9 心斎橋プラザビル東館 TEL. 06-252-7491
広島支店 LM営業課	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082-244-3749
九州支店 LM営業課	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092 472-2130
本社 電子楽器営業部	〒430 浜松市中沢町10-1
ポータブル楽器営業課	TEL. 0534-60-3271

※住所および電話番号は変更になる場合があります

YAMAHA feelin' club



T4960693043301